

令和4年度  
詩吟朗詠錦城流・一般社団法人詩吟朗詠錦城会

# 全 國 大 会



開催日時 令和4年10月9日(日)  
開催会場 日本特殊陶業市民会館(ビレッジホール)



開会の辞 鍛冶錦代

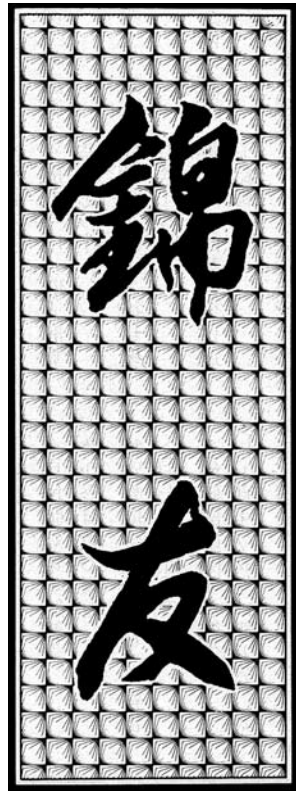
新型コロナウイルス感染症拡大のため、山口県徳山市、北海道函館市での開催が見送られ、3年ぶりの開催となった今年度の全国大会は、愛知県の日本特殊陶業市民会館ビレッジホール(名古屋市)で10月9日(日)11時より開催されました。愛知県での全国大会の開催は、10年ぶりでした。予報では、大会当日は晴れのち雨でしたが、予報通り大会途中からは雨が降り始めました。コロナ対策には万全を期し、11時から、鍛冶錦代本部長の開会の辞で幕をあげました。

戦後77年企画番組『戦後77年 すべては現在の90歳で、戦争の経験者です。戦争の悲惨さは、わかりません。戦争は嫌いです。この殉国



心を映す月の詩

マスク着用での「君が代」斉唱と、同じくマスク着用で村瀬城博最高諮問委員の発声による「富士山」に続いて3題の合吟の後、「龍齋貞奈さんの初々しい解説で、特別番組『心を映す月の詩』、詩舞も入って45分の番組。「月は人の心を照らし、人は月によって喜怒哀楽の情を生む」このことは、永遠に変わらないと思います。



一吟徹心霊  
一曲能興国

## 錦友…第311号

(令和4年11月15日)

編集・発行  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
一般社団法人詩吟朗詠錦城会  
東京都港区麻布十番2-4-14  
電話:東京03-5484-3301(代)  
〒106-0045

式典の後は、今回初めての試みである琵琶曲「茶絃録」でした。22人の琵琶演奏者が2段に座り、箏・鼓・笛が入った演奏。その手前では、表千家・水谷尚美社中の皆様方のお点前が繰り広げられ、野点の情景が舞台全体に広がりました。



式典

は、何度聞いても涙が出ます。極まらない思いは、戦後77年に至っても忘れることが出来ない。迫力ある吟詠に悲壮感が漂い、聴く人の涙を誘う。続いて、式典に入りました。

この度は、一般社団法人詩吟朗詠錦城会全国大会にお招きいただき、誠にありがとうございました。当日は、琵琶曲「茶絃録」にも参加させていただきました。皆様にも参加させていただきました。皆様の典雅な琵琶・琵琶歌の演奏に包まれ、お点前を頂戴する贅沢なひとときの中で、詩吟の歴史に思いを馳せるとともに、ありし日の大茶会の様子を思い浮かべることができました。貴会の益々のご発展を祈念するとともに、引き続き本市文化振興へのお力添えをお願い申し上げます。

## 茶絃録を拝見して

愛知県県民文化局長

伊藤正樹様

10月9日に行われた全国大会におきましては、豊臣秀吉の茶会を再現した琵琶曲「茶絃録」に参加させていただきました。誠にありがとうございました。素晴らしい琵琶・琵琶歌の演奏の中、お茶をいただくという、大変貴重な経験であり、舞台上ではなく、あたかも優美な庭園に居るような心持ちになりました。詩吟朗詠錦城会の皆様におかれましては、今後とも本県の文化振興の向上に一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

名古屋市文化歴史まちづくり部長  
鈴木康生様

(前頁よりの続き)



茶絃録

合吟と詩舞が続いた後、企画吟『親子の情を詠う』と題して「石童丸」、「侍與歌」、「野口英世」の3題が吟じられました。

続いて、琵琶舞曲『名残りの桜』、浅野内匠頭の最期の場面を詠った曲で、長矩公の無念の思いは如何ばかりかと感動で胸が詰まる思いでした。

最後の特番は、琵琶舞物語『関ヶ原』でした。一龍齋貞心先生の名解説に、琵琶、吟、剣舞、詩舞と素晴らしい舞台上に拍手喝采でした。



名残りの桜



関ヶ原

緞帳が下りるとすぐ上がり、来年度の開催地・滋賀県の本部長・林錦枝先生の閉会の辞で、すべて終了しました。

コロナ禍ではありましたが、会場をクラウンホテルグランコート名古屋に移して、懇親会を開催し、久しぶりの吟友との楽しいひと時を過ごしました。

(大会記録係・山田城篤)



懇親会

**新入会員の紹介**  
7/4、10/15

- 日立支部 鈴木敏子
- 新宿支部 峰 聖志
- 藤沢支部 岡本和江 眞田憲成
- 関 珠美
- 日野江支部 池田幸世
- 彦根支部 北村昌恵
- 山東支部 宮川千花音 辻井由聡
- 台東道場 三田智鶴 麻生リタ
- 大日向正人 大根一直
- 佐久道場 木内藤人 中村八恵子
- 神辺道場 稲田有梨
- 函館支部 遠藤裕子 田村良子
- 平東支部 若松 敬
- 近江八幡支部 遠藤守男
- 名古屋北支部 小塚一枝
- 盛岡支部 長内淑雄
- 鹿児島支部 村田玲子
- 福山松浜支部 伊垣正則
- 小倉支部 末崎 修

「近江八景を巡る」  
吟行会に参加して

7月12日(火)、滋賀県湖北地区の会員が集い、琵琶湖南部の景勝地である近江八景を巡る吟行会が行われました。コロナウイルスで何もかも中止・延期で我慢していた気持ちが一挙に盛り上がり意気揚々と皆の笑顔が当日バスの中に集まりました。

あいにくの小雨模様の中を出発です。しばらく談笑が続き、車窓から比良山系を遠目に眺め堅田で下車、往古は堅田湖族で栄えた歴史と風情ある街並みを歩き、湖に浮かぶ御堂へ。お堂の中の多くの仏さん達にお願いごとをしました。松並木と浮御堂が素晴らしく綺麗で、これをバックに集合写真を撮りました。

である三井寺を散策しました。三井の晩鐘(日本三名鐘)を2人の先生が代表で突いて下さり、さすが名鐘の深い音色を耳にしながら、境内を後にしました。バスに戻り、大津プリンスホテルの屋形船乗り場へ移り、乗船しました。船の中では、女性会員が「近江八景」を、男性会員は「新近江八景」を吟じました。近江の名所に身を置き、その景勝を眺めることで、いつもと違う感情で皆の声は船内に響き渡りました。

その後上陸、大津プリンスホテルの最上階(37階)レイクビューダイニングピアノで琵琶湖の大観を楽しみながらの昼食会、和・洋・中華のバイキングでそれぞれ好みの御馳走を皿に盛り、下が向けないほどお腹いっぱいになり、楽しい時間を過ごしました。



いつまでも見入っていた気持ちでしたが、そのあと唐崎神社を車窓に眺め、次に桜の名所

「近江八景」巡りの余韻を感じながら、帰りは、名神高速を帰途につきました。久しぶりの吟行会は、本当に素敵な一日でした。吟友ってやっぱりいいな・・・と改めて思いました。

今回の楽しい交流の場を作ってくれた先生方に「ありがとうございます」と感謝を申し上げます。

(長浜東支部 藤木錦塔)

# 石川忠久先生のご逝去を悼む

宗家 山元錦城



石川忠久先生

講演始めにマイクの前の先生  
いわく！

令和4年7月12日の早朝、心不全のため、石川先生がご逝去なされました。都内の病院にご入院されて僅か2週間余のことであつたそうで、お見舞いも叶わぬままでした。

日本漢詩界は勿論のこと、私達漢詩を愛する吟界にとつても代え難い先生を亡くしました。

錦城会では永い間お世話になりました。総会後の研修会にご足労をお願いし、平成12年2月の『李白と杜甫』の講演を第1回として、今日までに22回を数えます。第1回の平成12年から、毎年正月に湯島聖堂にてお会いするのを楽しみにしてきました。

先生の講演では、巧みな話術をもつて、皆の笑いを誘ったり、漢詩の風景、また作者の心情を、あたかも先生自身のことのように話される。そして常に笑顔。豊かな人間性を感じていました。

私にとっては、第1回の『李白と杜甫』の講演は、強烈な思い出になっていきます。

に染められた

「杜甫の五言絶句」

江碧鳥遶白

山青花欲然

今春看又過

何日是帰年

『私はね、昨日酒の席があつて飲みましてね！楽しかったですよ！お互いが漢詩を作ったり、歌つたりしてね！皆さんも一緒にどうですか？』と、その後で『相手は李白とですよ！』『アツハツハツハ！』と、その場の皆々、度肝を抜かれたと同時に、先生の笑いに引き込まれたのでした。

それから『李白と杜甫』と題した講演は、先ず訓読みで朗読され、解説のあと、四声（平声、上声、去声、入声）を生かした中国語で流暢に歌うように2回朗読されて、次の詩にと進み、予定の2時間を終わり、詩はね！抑揚が命ですよと。

トン、トン トントン  
トン、トン トントン  
トン、トン トントン  
七絶の抑揚を云つておられたのを思い出します。

先生のお酒はチビリチビリとお猪口でゆっくり楽しまれる飲み方でした。

今は亡き先生の形見となった全日本漢詩連盟15周年記念（平成30年）のシャツを前に、それ

## 樋口一葉幻想

南房総道場・井上錦亮

一 君かつて

この細き道 行きしかと

両足速き 町並を過ぐ

二 燃えつきし

命の炎 燠のごと

推敲重ねし 原稿に見る

三 めくるめく

想いふつふつと湧きてきぬ

桃水にあてし 文読みし時

四 短か世を

命の限り 生きたるや

血潮流るる ことき筆あと

五 若き日を

悩み惑ひて 過ぎにきと

六 一葉の

唇よりもるる 一言を

待つがに佇む 雨は蕭々

七 数々の念ひ残して

逝ける魂 哭きてか渦まき  
雨しきり降る

## ◆新師範の紹介◆

雅号	県名	取得年月
加藤錦行	(長崎県)	4・7
御所城帆	(長崎県)	4・7
原野錦修	(東京都)	4・8
松原城璋	(埼玉県)	4・8
角倉城蔵	(鹿児島県)	4・9
基 錦心	(鹿児島県)	4・9
今村城泰	(鹿児島県)	4・9
濱田錦盛	(鹿児島県)	4・9
梅原錦了	(鹿児島県)	4・9
下野城皇	(鹿児島県)	4・9
吉松城白	(鹿児島県)	4・9
竹中城真	(滋賀県)	4・10
堤 錦蘭	(滋賀県)	4・10
伊藤城津	(三重県)	4・10
林 錦颯	(滋賀県)	4・10
中尾錦清	(滋賀県)	4・10
杉田錦雅	(滋賀県)	4・10
徳弘錦瑛	(滋賀県)	4・10
美濃部錦玉	(滋賀県)	4・10
小林錦福	(福井県)	4・10

## ◆催事のご案内◆

(令和4年11月～5年3月)

◆本会主催 ◆本会後援

◆滋賀県湖東地区・彦根支部発  
足65周年記念吟詠大会

・12月4日(日)

・滋賀県彦根市

◆第二回指導者講習・研修会

・3月2日(木)～3日(金)

・開催地 福岡県春日市

本部の動き (4・7・1より  
4・10・15まで)

7月23～25日 滋賀県本部湖南地区の師範指導

29～31日 鹿児島県本部の講習研修会と昇格審査

8月20～22日 北海道道南本部の講習研修会

26～28日 滋賀県本部の昇格審査

9月4日 福岡県本部65周年記念大会

9～11日 愛知県本部の師範指導と昇格審査

17日 日本伝統文化吟友会「吟と舞の集い」

25日 神奈川県本部50周年記念大会

10月2日 宮城県本部の講習研修会と昇格審査

9日 全国大会 愛知県名古屋市・日本特殊陶業市民会館

〔ご案内〕

ユーチューブ配信(詩吟朗詠錦城会許可済み)

「福岡県本部65周年記念大会inウエル戸畑」

番組単位編集

配信開始日程 11月中旬

【配信元】 詩吟朗詠錦城会 福岡県本部

# 福岡県六十五周年記念大会を終えて

元内閣官房長官秘書官

河村建一様

9月4日、詩舞道福岡県50周年記念、岡垣支部30周年の記念と共に開催。コロナ禍に加え、台風12号到来の情報に耳にしなから、参加会員の心は前を向いて、前日のリハーサルから各委員の一生懸命さに応えてくれたかのような大会当日の青空に、驚きと感謝から始まり、観客も丁度良く埋まり、地元北九州市長、中村県議令夫人、宗家、金子副会長、河村健一氏、竹明り会長ご列席、式典前から数番組を観て下さり、また、沢山の祝電も華を添えて頂きました。紙面をお借りし改めて御礼申し上げます。

懇親会も、会話時のマスク徹底。県本部要職功労者・松岡、吉澤、山田、佐々木氏4名への感謝状。99歳最高齢の佐々木城行氏には、宗家より花束の贈呈。「錦城会の歌」CDを聴いて拍手を合い、和やかな中で開催出来た喜びで、全ての運びとなり、感謝で終わり。

初めての大会委員長、初めての舞台係の雅号・鶴田君、遠方ご来福、初めて大会を観て下さった河村健一氏のお三方の感想文を投稿させて頂きます。

(福岡県本部大会会長

東本錦恰)

吟詠には馴染みが深く、明治維新始動の地「萩」生まれでもあり、吉田松陰先生の教訓語録を幼少期から暗唱から始まる授業を受け、地元詩吟の大会を毎年鑑賞して参りました。しかし、錦城会のピアノや琵琶、琴、尺八、舞が伴い、伝統文化と現代芸術が融合された完成度の高い総合芸術の舞台に、ただただ圧倒されました。



人逆さ富士での富士山合吟

私は、約1年前の令和3年9月、錦城会福岡県本部創立65周年記念大会の会場確保のため、身の引き締まる思いで、北九州市立戸畑市民会館での抽選会に臨み、無事、大会会場の確保ができました。

大会委員長・益田城真



和歌と新体詩で綴る日本の風景より

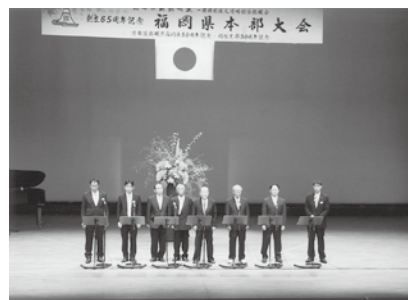
それから大会実施に向けて準備に取り掛かりましたが、段取り、作成書面等が何かも全く分からず、先輩・同輩役員方の手助けで、出演者申し込み書類作成・発送、名簿作成等の作業、また、宗家・総本部等への後援依頼、北九州市長等への顧問就任依頼、伴奏者への賛助依頼等の諸々な準備も順調に進み、漸く、大会実施の目処が立ったことでした。

ところが、大会間近の令和4年8月頃には、新型コロナウイルス感染症が全国にまん延し、コロナ患者の増加により、大会の開催自体危ぶまれたのです。しかし、大会会長・東本錦恰先生、大会各役員や出演者皆様の協力のもと、同年9月4日、右記市民会館「通称ウエルとばた」で大会開催にこぎ着け、ホッとしました。

また、大会当日には、出演者

のみならず大会関係者全員が、大会会場において、コロナ患者のクラスターが出ないよう万全な準備のもと、細心の注意を払い、そして、宗家、北九州市長等の来賓者や沢山のお客様を会場に招き入れ、出演者の方達の日頃の十分な練習成果を披露できる機会を持つたこと、また、誰一人病気・怪我もなく無事成功裡に終えたことです。

最後に、私にとつては、この大会のお世話が出来たことを大変光栄に思っています。



人生訓「勸学」より

福岡中央道場

雅号 鶴田城天明

これまで先輩師範木下先生に舞台係を少し教わっていたので、全く抵抗なく、皆様共仲良く業務をお手伝い出来、あつという間で楽しかったです。

反省は、課題曲に力を入れ過ぎて、最初の逆さ富士に並んで参加した「富士山」を思い切り吟じることが出来なかったのが

心残り。今後は、富士山もしっかり覚えながら稽古に励みたいと思います。



琵琶舞曲「近江八景」

## 吟道之碑前祭

例年11月の最終日曜日に、沼津市大瀬崎に於いて開催される吟道の碑前祭ですが、今年も中止されることになりました。

昭和39年に第1回吟道之碑前祭が催行されて以来、毎年催行されてきた吟道之碑前祭ですが、コロナ禍により3年中止の止むなきに至っています。しかし、来年は、吟道之碑60周年記念大会が開催されるようです。

## お詫び

錦友前号(一面)の任期満了に伴う理事・監事の改選でお名前に漏れがありました。お詫びして追加させていただきます。

理事 東本錦恰(福岡)

# 神奈川県本部五十周年記念大会

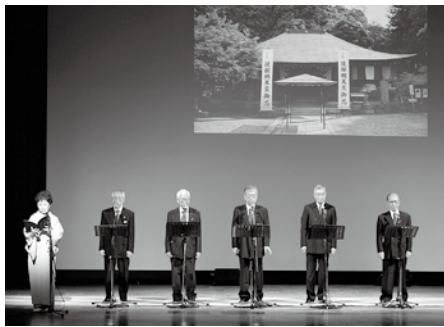
令和4年9月25日(日)、横浜市泉区民センター「テアトルフォンテ」にて、神奈川県本部50周年記念大会を開催しました。コロナ禍の中で一年遅れとなりましたが、神奈川県及び横浜市の協賛のもと、神奈川県本部の多くの会員が指導を受けました故丸山城壯宗範先生の三回忌追善を兼ねた記念大会を盛会裡に終了することができました。これも、ひとえに錦城流宗家及び錦城会の皆様のご支援の賜物であり、神奈川県本部会員一同心より感謝申し上げます。

本大会には宗家・山元錦城先生、錦城会会長・城戸城濤先生、宗範・山元錦隆先生及び宗範・金子城大先生他重鎮の諸先生のご来臨をいただき、記念大会に華を添えていただきました。



式典

本大会は、企画吟「日本の四季を詠う」18吟(合吟)、詩吟物語「楠公編」9吟(男性吟)、企画吟「秋のおもむき」12吟(女性吟)、企画吟「平和を念う」(4吟)で構成し、神奈川県本部会員の約百名が参加いたしました。宗家先生には、「題岩崎谷洞」をご披露いただき、6名の諸先生



詩吟物語「楠公編」より



「日本の四季を詠う」より

## 錦城流の教本に掲載されている 漢詩の作者(11) 頼山陽

頼山陽は、江戸時代後期の歴史家、思想家、漢詩人です。1700年に大阪で生まれ、青年期を広島で過ごしました。父親の春水(しゅんすい)は、当時私塾青山社を開いていました。が、広島藩が学問所を創設する際に朱子学者として迎えられ、頼山陽は1709年から、現在の「頼山陽史料資料館」施設内の屋敷に住み、その後1797年に

江戸で学問を学ぶため一年間遊学します。江戸を知った山陽は、1800年には広島藩を脱藩し京都へ行きますが、当時脱藩は重罪。すぐに連れ戻され、屋敷内の離れの一室に幽閉されることになりました。

生にも独吟を披露していただくことが出来ました。さらに、東京都本部及び埼玉県本部の男女会員合計30名による友情出演(男女夫々2吟の合吟)により、会場を盛り上げていただきました。

この幽閉されていた離れが現在「頼山陽史料資料館」施設内にある頼山陽居室であり、頼山陽はこの幽閉されていた約5年間、晩年に完成する「日本外史」の草稿をまとめました。

50年の歳月を経て、神奈川県本部の多くの会員はグラントシニアの年齢層と相成りました。節目となる本大会は、私どもグラントシニアによる魂のこもった詩吟コンサートの様相を醸し出し、詩吟という伝統文化の灯を絶やさず、絶やしたくないという私どもの深い想いと心意気を発現するいい機会となりました。関係者の皆様に改めまして深甚なる謝意を表したいと存じます。

幽閉が解かれてからも著述に専念し、現在の広島県、備後の塾で儒学などを教える先生になったのですが、さらに脱藩を企て、京都でみずから塾を開きます。そうして後半生を京都で送り、執筆活動に勤しみ、頼山陽は47歳で「日本外史」を老中の松平定信に献上しました。

「日本外史」が出版されると大ベストセラーに。これは幕末の尊王攘夷運動に影響を与えました。伊藤博文や坂本龍馬、近藤勇、西郷隆盛などが、山陽の書物を熟読しており、「頼山陽を知らずして尊皇攘夷を語るなかれ」と言っても過言ではなかつたようです。

「幕府の上には天皇がいる」とを明確にした日本外史。内容は、幕府への批判とも受け取られかねませんが、頼山陽は幕府を部分的には評価していたため流罪にはなりませんでした。山陽には、政治的嗅覚もあり、自身の身を守っていたのです。

(大会委員長 伊東城峯)

参考資料 HISTRIP MAGAZINE



日本外史の内容は、平安時代の源平争乱から徳川家康による江戸幕府開闢までの「武士の歴史」を綴ったものでした。歴史上のさまざまな合戦の様子が、スポーツの実況中継のようにスピーディに、ドラマティックに展開していきます。江戸時代にも、「日本外史」という臨場感のある著書が頼山陽によって生まれていたのでした。

頼山陽は、著書の中で、「平家が滅び、鎌倉幕府が滅びたのは、歴史の動きに取り残されて、政権を担当する力を失ってしまった当然の結果だ」と主張しています。歴史は必然的にせわしく動いていき、そうした歴史観が、尊王倒幕の意気に燃える幕末の志士たちを動かしたのでしょうか。

# 日本伝統文化吟友会 剣詩舞コンクール 関東決勝大会で入賞する

コロナ感染拡大増が最悪となりましたが、酷暑の中の八月二十日、日本伝統文化吟友会 剣詩舞コンクール関東地区決勝大会が、埼玉県草加市アコスホールで開催されました。地区予選大会を乗り越え、関東決勝大会の出場権を獲得されての出場となり、会場内の空気も、緊迫した状況に包まれての大会となり、錦城会からは、左記の皆様方が出場しました。

古賀 豊 (神奈川県) 木屋吉弘 (東京都) 審査の結果は、漢詩一般一部の有原裕絵様が準優勝、一般三部準優勝に石原隆夫様、優秀賞に古賀 豊様、大内廣光様、漢詩一般四部には、準優勝に菊池 慎一郎様、第四位に林 清隆様、優秀賞に丸山武夫様、シード権で、木屋吉弘様に奨励賞が贈ら

## 第31回日本伝統文化吟友会 全国吟剣詩舞コンクール中国地区予選大会終了

有原裕絵 (埼玉) 佐藤法子 (東京) 古賀 豊 (神奈川県) 石原隆夫 (神奈川県) 大内廣光 (茨城) 漢詩一般四部 丸山武夫 (神奈川県) 金子筑波 (埼玉) 林 清隆 (埼玉) 山口勝治 (東京) 中川新三 (神奈川県) 菊池慎一郎 (茨城) 木屋吉弘 (東京) 佐藤法子 (東京) 石原隆夫 (神奈川県) 川崎真理子 (茨城)

世界を恐怖に陥れているコロナウイルス感染症の中で、中国地区も3年ぶりの予選大会となりました。先ず6月16日(土)に、倉敷公民館に於いて、剣詩舞部門が開催されました。審査結果は左記の通りです。優勝 藤井美由紀(全国大会) 詩舞一般二部 優勝 一般三部 詩舞一般三部 四位 坂口由美子(全国大会) 五位 神原光江 審査員長 西川緑恵 流センターに於いて

れ、短歌一般の部では、準優勝に石原隆夫様、優秀賞には、佐藤法子様が入賞されました。八十歳以上の方には審査員特別賞が、金子筑波様、中川新三様、木屋吉弘様に贈られました。中川様は、最高齢の九十四歳の挑戦ですが、最後まで詠い切った見事な吟詠でした。おめでとうございました。惜しくも入賞を逃されました皆様方も来年を期待いたしております。

漢詩一般二部 二位 大村 誠 三位 新田洋子 短歌一般の部 二位 佐藤かつ子 漢詩一般四部 三位 平川智久(全国大会) 審査委員 西川錦洸 以上の結果となりました。 剣詩舞2名、漢詩1名が全国決勝大会に参加されます。今年度は、金沢市文化ホールに於いて決勝大会が開催されます。頑張ってください。(広島・西川錦洸)

## 全国大会の「茶絃録」に参加して

今回、全国大会での「茶絃録」の合奏に参加させていただきました。琵琶のお稽古はしていますが、参加者の指導者がそれぞれ違い、お顔を拝見したこともない方々もいらつしやる中で、一緒に稽古をしたこともない22名が、弾き手も歌も本当に合うのだからかと心配でした。まして、お点前に合わせられるのだろうか、心配の種は尽きませんでした。

習。当日は、それぞれお役があったり、自分の出番があったり、お稽古の時間はありません。緞帳が上がると、会場からどよめきが聞こえ、いよいよ始まりです。鼓と笛の音が聞こえて来ます。弾き始めがびつたりと合うのかなという不安。無事にいられた！それからは、それが練習してきた通りに自信をもって弾くしかありませんでした。演奏が、お点前と合っていたのかどうかを気にする余裕もなく終わりましたが、舞台から降りると、合う人ごとに「よく合っていたよ」「素晴らしかったよ」と声をかけて頂き、ホッとしました。

## 編集後記

今回、このような舞台に参加させていただきました事に感謝申し上げます。(神奈川県 安田錦義)

新型コロナウイルスの感染も中々ゼロにはならず、大勢の人が参加・鑑賞する全国大会の開催も心配しましたが、現地の皆様、参加する会員それぞれの細心の注意のおかげで、クラスターが発生することもなく、無事に終了しました。3年ぶりにお会いする顔・顔・顔。また来年もお元気で会いましょう！